



△9月16日（月）夜の役場裏の土手。岩木川が増水し、堤防を越水したため、土のうを積み対応



△翌17日（火）の役場裏の土手。前日より水位は下がったが、橋の下ギリギリまで水があった

# 大雨により岩木川が増水 町でも初の避難勧告を発令

大型の台風18号の被害が当町にも及びました。9月16日（月）、夕方から夜にかけて接近した台風18号は断続的な強い雨をもたらし、その影響で当町を流れる岩木川の水量が瞬く間に増えました。この事態を受け、町では初めて町民に対し、避難勧告を発令。同日夜9時過ぎには川の水がさらに増水し、堤防を越えました。

9月16日（月）	
午後1時 6分	大雨洪水警報発表
6時 00分	幡龍橋で氾濫危険水位を上回る
8時 00分	避難準備情報発令（菖蒲川、野木、木筒）
8時 30分	避難勧告発令（菖蒲川、野木、木筒）
9時 40分	避難勧告発令（大巻、強巻）
9時 45分	役場北側堤防から越水
10時 20分	避難勧告発令（相原町、鷹ノ尾）
9月17日（火）	
午前0時 26分	避難勧告解除
1時 50分	幡龍橋で氾濫危険水位を下回る



△避難所に布団が運び込まれる様子





△浸水被害を受けた園地にはたくさんのゴミや落ちたリンゴが流れていた

●被害状況および避難勧告（勧告地区、避難者数など）

床下浸水 19 件 堤防漏水箇所 3 地区（鶴田、菖蒲川、木筒）  
 浸水農地約 66ha（被災農家 164 戸）  
 避難勧告地区 菖蒲川、野木、木筒、大巻、強巻、鷹ノ尾、相原町  
 避難対象世帯数 814 世帯、避難対象人数 2,754 人  
 避難者合計 780 人（富士見小学校 407 人、菖蒲川小学校 177 人、  
 胡桃館小学校 7 人、公民館 54 人、豊明館 135 人）

岩木川の増水により、役場北側の堤防から越水したため、土のうを置き、被害防止のための対応を行いました。  
 相原町、鷹ノ尾地区にまで出された避難勧告は17日未明に解除。避難者も帰宅が許され、午前2時には幡龍橋で氾濫危険水位を下回りました。しかし、岩木川の堤防の内側にあるリンゴ園地には広範囲にわたって川の水が浸入し、ほとんどの園地が浸水の被害を受けました。  
 今回の災害による人的被害はなかったものの、床下浸水19件、堤防漏水箇所3地区、浸水農地は約66ha、避難者数は780人に及びました。

9月20日（金）、自民党の津島淳衆議院議員が当町の被害状況を視察するため、来町（写真右）。木筒、菖蒲川、大巻などの被害が大きい地区を回り、漏水箇所や浸水被害を受けた園地を中心に視察が行われました。被害状況を間近で見た津島さんは「早急に被害を補償し、機能を強化しなければならない。今回の視察を踏まえ、関係機関には対策をとってもらよう要望していきたい」と話していました。



## 川の水が堤防を越水 そして避難勧告発令

9月16日、夕方から夜にかけて本県に接近した台風18号は猛烈な雨をもたらしました。

当町では、午後1時過ぎに大雨洪水警報が発表されると、各地区で水路や側溝の水が溢れ床下浸水の被害などが生じ、消防署や消防団が対応に追われ町でも災害対策会議を開きました。夕方には大雨警報は解除されたものの、洪水警報は継続。午後6時には板柳町の幡龍橋で氾濫危険水位を上回り、菖蒲川

地区八幡宮付近の堤防が漏水しました。

この事態に、午後8時には菖蒲川、野木、木筒地区に避難準備情報を発令しましたが、予想以上の岩木川の増水に、町では川の増水による災害が発生する危険があると判断。8時30分には同地区住民の避難を促す避難勧告を発令し、各小学校や公民館、豊明館を避難場所と定め、一人暮らしのお年寄りなどの避難補助や避難所への飲料水の供給を実施しました。

一方、岩木川の増水は止まることはなく、避難勧告は大巻、強巻地区にも発令。その直後、



△翌17日（火）の保安橋（菖蒲川～野木）の様子



今回の事態に青森県議会農林水産委員会が当町の被害状況を調査するため、9月18日（水）、現地視察に訪れました（写真左）。視察が行われた2haのリンゴ園地は川の水で浸水し、収穫前のリンゴには泥が付いていました。園主の方は「このままではリンゴも木も腐ってしまうが、手の施しようがない」と悲痛な気持ちを語っていました。

中野町長や町議会議員は、来町した視察団に対し、「このままでは農家の人たちは収入が見込めないし、来年またリンゴを生産できるかどうか分からない。県議会で支援策を話し合って検討してもらいたい」と強く訴え、視察団の工藤委員長は「県議会として国にしっかりと要望活動をしていきたい」と話していました。